作成・改訂日：2013年 2月 1日

安全データシート（SDS）

1. 製品及び会社情報

製品名：　カラーチェック 浸透液　PM－6

会社名：　株式会社 タセト
住所：　神奈川県藤沢市宮前 100-1
電話番号：　0466-29-5638
緊急連絡電話番号：　0466-29-5638
FAX番号：　0466-29-5630

推奨用途及び使用上の制限：　浸透探傷試験用 浸透液

2. 危険有害性の要約

GHS分類

	項目	区分
物理化学的危険性	引火性液体	区分外
	＊記載のない物理化学的危険性は、分類対象外か分類できない。	
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入：ガス）	分類できない
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉塵）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2
	呼吸器感作性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分2
	生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分外
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（腎臓、肝臓）
	吸引性呼吸器有害性	区分外
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	分類できない
	水生環境有害性（長期間）	分類できない
	オゾン層への有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語：　危険

危険有害性情報：
皮膚刺激
強い眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
長期又は反復ばく露による臓器（腎臓、肝臓）の障害

注意書き：
【安全対策】
すべての安全注意（本SDS等）を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
容器を密閉しておくこと。
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

【救急処置】
飲み込んだ場合：無理して吐かせないこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
衣類にかかった場合：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：直ちに医師の診断、手当てを受けること。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】　容器を密閉して涼しく換気の良いところで保管すること。

【廃棄】　内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：　混合物

成分及び含有量：

化学名	濃度(wt%)	CAS No.	官報公示整理番号（化審法・安衛法）	PRTR法 I)
アゾ系赤色染料	1～5	非公開	非公開	非該当
水	65～75	–	–	–
グリコール類	20～30	非公開	非公開	非該当
非イオン性界面活性剤	2～10	非公開	非公開	非該当
防錆剤	＜0.5	非公開	非公開	非該当

危険有害成分：

Ⅰ）化学物質排出把握管理促進法　　非該当

Ⅱ）労働安全衛生法　57条の2　　通知対象物質：非該当

毒物劇物取締法　　対象物ではない

4. 応急措置

吸入した場合：　被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
医師の手当、診断を受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合：　汚染された衣類を脱ぐこと。
多量の水と石鹸で皮膚を速やかに洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

目に入った場合：　水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

飲み込んだ場合：　口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状：　長時間吸入した場合：めまい、頭痛、吐き気。
皮膚に付着した場合：皮膚の乾燥、発赤。
眼に入れた場合：発赤、痛み。
飲み込んだ場合：めまい、頭痛、吐き気。

5. 火災時の措置

消火剤：　通常、火災の危険はない。
（水が蒸発しグリコール類の濃度が高まった場合、約124℃で引火する。その時は、一般的な消火方法でよく、消化剤は限定されない。）

使ってはならない消火剤：　–

特有の危険有害性:	加熱により水が蒸発し、グリコール類がしだいに濃縮され、引火の危険が高まる。
特有の消火方法:	特になし。
消火を行う者の保護:	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。
回収、中和:	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
二次災害の防止策:	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	局所排気・全体換気:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
	安全取扱い注意事項:	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 蒸気を吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
	接触回避:	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	技術的対策:	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
	保管条件:	容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
	混触危険物質:	「10. 安定性及び反応性」を参照。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:		設定されていない。
許容濃度(ばく露限界値):		
	日本産業衛生学会(2012年版)	設定されていない。
	ACGIH(2011年版)	設定されていない。
設備対策:		この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	呼吸器の保護具:	換気が不十分な場合は、適切な呼吸保護具を着用すること。 適切な呼吸器保護具を使用すること。
	手の保護具:	適切な保護手袋を着用すること。
	眼の保護具:	適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)。

皮膚及び身体の保護具：　適切な顔面用の保護具を着用すること。
適切なの保護衣、保護面を使用すること。

衛生対策：　取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：	赤色液体
臭い：	ほとんど無臭
pH：	データなし
融点・凝固点：	データなし（＜0℃）
沸点、初留点及び沸騰範囲：	100℃
引火点：	なし
自然発火温度（発火点）：	なし
燃焼又は爆発範囲：	なし
蒸気圧：	なし
蒸気密度（空気 = 1）：	なし
比重（密度）：	1.05
溶解性：	水、アセトンに可溶
オクタノール/水分配係数：	データなし
分解温度：	データなし
粘度：	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常の取り扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性：	金属ナトリウム等の禁水物質との接触すると、激しく反応し爆発の危険がある。
避けるべき条件：	加熱。
混触危険物質：	禁水物質との接触を避ける。
危険有害な分解生成物：	–

11. 有害性情報

（グリコール類として）

急性毒性：

経路	動物		
経口	ラット	LD_{50}	15600mg/kg
経皮	ウサギ	LD_{50}	13300mg/kg

吸入（蒸気、ミスト） データが少なく、分類できない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性：
グリコール類：皮膚刺激性試験でヒト、モルモットに対して刺激性なし。
非イオン界面活性剤：　同試験で ラビット　500μL、SEVERE
皮膚刺激（区分2）

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：
アゾ系赤色染料：ラビット 中程度の刺激性あり
非イオン界面活性剤：　刺激性あり
強い眼刺激（区分2）

呼吸器感作性又は皮膚感作性：
呼吸器感作性：データなし（分類できない）
皮膚感作性：グリコール類；モルモットの皮膚感作性試験（Maximization test）（DFGOT vol.10 (1998))、およびヒトのパッチテスト(IUCLID (2000))における感作性なし（no evidence of sensitizing effects）の結果に基づき「区分外」とした。

生殖細胞変異原性：
グリコール類：分類の根拠としても疑義があり分類できないとした。 なお、in vitroの変異原性試験は概ね陰性結果が得られている（DFGOT vol.10 (1998)、NTP DB(Access on June. 2008)、IUCLID(2000)
アゾ系赤色染料：Amesテスト（スクリーニング2菌株）で陰性のため、区分外とした。

発がん性：　データ不足のため分類できない。

生殖毒性：
グリコール類：マウスを用いた2世代生殖試験において、親マウスで一般毒性が発現する容量で明確な生殖毒性が認められたことから、区分2とした。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：　データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）:　グリコール類：ラットの反復経口ばく露により、腎障害（ネフローゼ）が見られ、軽度ながら肝障害の記述も一部にある。ヒトでは、ばく露に関して複数の免疫調査が実施され、死亡例、新厚生の腎障害と腎不全、一部の報告では肝障害が報告されている。
臓器（腎臓、肝臓）の障害（区分1）

吸引性呼吸器有害性:　データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）:　グリコール類：魚類（ﾌｧｯﾄﾍｯﾄﾞﾐﾉｰ） LC50（96H）=75200mg/L（AQUIRE、2008） （ﾓｽｷﾄﾌｨｯｼｭ） LC50（96H）=32000mg/L
非イオン界面活性剤：生態蓄積性低い。　（区分外）

水生環境有害性（長期間）:　グリコール類：難水溶性でなく（水溶解度：1、000、000 mg/L（SRC、2005））、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

オゾン層への有害性:　区分外

13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物:　廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装:　容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制
海上規制情報　IMOの規定に従う。
航空規制情報　ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.（国連番号）:　－
Proper Shipping Name（品名）:　－
Class（クラス）:　－
Packing Group（容器等級）:　－

国内規制
陸上規制情報　消防法に従う。
海上規制情報　船舶安全法に従う。
航空規制情報　航空法に従う。

緊急時応急措置指針番号　－

特別の安全対策　輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法:　表示対象物質 ： 非該当
通知対象物質 ： 非該当
非危険物
有機溶剤中毒予防規則　： 非該当
特定化学物質等障害予防規則 ： 非該当

消防法:　非危険物

毒物及び劇物取締法:　非該当

化学物質排出把握管理促進法:（PRTR法）　非該当

船舶安全法:　非危険物
（危険物船舶運送及び貯蔵規則 第2、3条、告示 別表第1）

航空法 :　非危険物
（航空法施行規則 第194条、告示 別表第1）

16. その他の情報

参考文献等：

1) 中央労働災害防止協会「GHSモデルMSDS情報」
2) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS分類結果
3) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック[混合物用(塗料用)]」
4) JIS Z 7252:2009「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
5) JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
6) ㈱タセト 社内資料（原材料MSDS）

記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者に提供するものです。 取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていない、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。